

園の輪

そののわ No.191

学校法人 甲子園学院



モーリス・ユトリロ「サンビンセント通り」(甲子園学院美術資料館蔵)

CONTENTS

〈ESSAY 2025〉…………… 2	〈学校園だより〉…………… 4～9
「道から歴史をひもとく」	幼稚園 小学校 中・高校 短大 大学
森井 裕史	
〈学院トピックス〉…………… 3	学院生の活躍…………… 10
大学オープンキャンパス	
教育振興基金	

道から歴史をひもとく

森井 裕史



西宮にあります私の家の前に、南北の新しい道路が作られています。西宮には、東西にはいくつもの立派な道路があり大変便利ですが、南北にはあまり大きな道路がなく、南北の道路の敷設は西宮市の長年の課題です。本学西宮キャンパスの東側の道路はいずれ、これは何年先になるかわかりませんが、国道171号につながる道路にするという昭和以来の計画もあります。

西宮市は人口の多い南部地域のみならず、全市的に縦横の道路が比較的整然と整備されています。これは市民が道路建設に積極的に協力をしたからだ、と聞いたことがあります。先祖から受け継いだ土地を削られたり、他の土地と交換したりしてでも、道路の重要性を深く理解した人が多かったということでしょうか。

西宮市には古代より西国道、中国道などが通り、西宮神社はまさにこの結節点にあります。これらの道を抜きにしては西宮神社を中心として発展した西宮の中心部はもろろん、西日本の発展を語ることはできませんでした。西宮には城山という地名があり、また瓦林城跡の石碑が西宮キャンパス近くの日野神社にあります。中国道と西国道に挟まれたこの地は、軍事的にも大事な場所であったことを示します。

西宮から東に目を転じますと、伊丹の有岡城、尼崎の塚口城、尼崎城があり、これらがだいたい一直線に並んでいるのも意味があると思います。塚口城は塚口御坊と呼ばれる一向宗の拠点で、いまは阪急塚口駅プラットフォームの土台としてその一部が残されていますが、いずれにしても軍事的要衝であったと言えます。

有岡城に関しては、戦国時代ここに幽閉されたとされる黒田官兵衛は、実は荒木村重に捕らえられたのではなく、自らその地にとどまったのではないか、という話がある歴史研究者から聞いたことがあります。織田信長の使いとして、信長に反旗を翻した荒木村重の説得に有岡城に向かった官兵衛ですが、村重にとらえられ、長期にわたって狭い土牢に閉じ込められたとされます。そのために官兵衛の足腰が悪く、一生の後遺症となったと言われています。NHKの大河ドラマなどでも、そういったシーンが取り上げられたことがあります。

しかし、これに対して自ら有岡城にとどまったとする説には伊丹の地が大きく関係しています。信長はいずれ丹波、但馬を経て山陰を治めることを考え、山陽、山陰そして京都、大坂に近い伊丹の地で情報を取ることを命じたのではないか、というのです。これには多くの検証が必要かと思いますが、そういった仮説が出てくるのも伊丹と各地が西国道、中国道や有馬街道から丹波、丹波から山陰道とつながっているからでしょう。

道から歴史をひもといてみますと、道は単に社会的インフラではないと考えるところです。

もりい ひろし ●甲子園短期大学准教授 就職課長

兵庫教育大学大学院教科・領域教育専攻修士（教育学）。昭和58年4月兵庫県立高等学校社会科教諭。主幹教諭・教頭・校長を経て令和4年4月甲子園短期大学に着任。

オープンキャンパス 多数の参加者に好評

甲子園大学オープンキャンパスは、四月二十七日から九月七日までの間に計十回開催しました。

今年度は、全体の進行を在学生主体にしたことが特徴としてあげられます。

その一つとしてオープン

ニングの司会進行を担当してもら

いましたが、始まりの会

の雰囲気まで以上で以上

に作り上げてくれました。



また、個別の質問対応や学生と巡るキャンパスツアーなど

を行い高校生や保護者に甲子園大学をより魅力的に見せる工夫をし、実際にアンケートなどでも「大学の先輩が優しく接してくれて嬉しかった」「大学のことが良くなった」という意見も多くいただきました。

○栄養学部栄養学科

各回、社会で活躍している卒業生（管理栄養士として実際の企業で働く方や、スポーツの世界で活躍する先輩など）や薬膳の専門家の方を招き、高校生に分かり易い体験授業を実施しました。また、専門的な設備や器具を用いながら栄養や健康について実体験してもらいました。

○栄養学部食創造学科

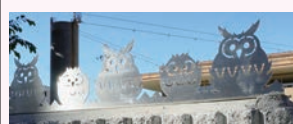
体験授業として、実際にカフェ

幼稚園 ブロック塀改修工事

甲子園学院幼稚園のブロック塀の改修工事が、十月で完了しました。工事期間中は園児や保護者の皆様にご迷惑とご不便をおかけしましたが、事故もなく無事に終えることができました。

今回の工事では、「忍び返し」

が取り付けられています。「忍び返し」とは屋根や塀などの高い場所に取り付け、不法な侵入を防ぐため鋭利な金属や竹などを使った



防犯対策具です。幼稚園の塀ではかわいいフクロウやミミズクなどの動物が使われています。

や飲食店など食ビジネス業界で活躍されているプロの講師の方を招きトークセッションを行いました。

また、アサヒ飲料のウィルキンソンと連携し宝塚をイメージしたオリジナルのドリンク作りやビザ職人を招いてビザ作りを実際に体験する授業を行いました。

八月十日には栄養学科と食創造学科合同でNHK連続テレビ小説「おむすび」の管理栄養士指導にあたった、甲子園大学の篠木敬二専任講師を中心としたメンバーによる、ドラマ制作やドラマの裏側に迫るトークセッションを行いました。

○心理学部現代応用心理学

本学で学べる六つの領域（発達心理学、臨床心理学、犯罪心理学、健康・スポーツ心理学、現代メデア心理学、ビジネス心理学）の中から、身近に体験してもらえる心理学についての体験授業や、各領域の専門家である教員たちによるミニ講義を行いました。また学内の道具を使用した心理学の体験コーナーを設け、教員や学生と会話をしながら楽しんでもらうことで大学の魅力の一つでもある教員と学生の距離の近さを実際に感じてもらいました。

全体を通して一度だけでなく何度も来てくれるリピーターの高校生も多く、また来たいと思ってもらえるオープンキャンパスを教職員と学生の力で実現できました。

プラチナ世代の 学び直し

心理学部二回生の岡田喜代子さんが、十月三日、関西テレビの報道番組「NEWSランナー」で『七十六歳の青春 希望に満ちた大学生活と夢』として密着取材を受けた様子が放映されました。

甲子園大学では、プラチナ世代（三十五歳以上の方）に心身の健康のための実学を提供しています。岡田さんは、中学卒業後理容師の道へ進み七十歳で退職。すぐに定

教育振興基金

平成二年、創立五十周年を機に、その記念事業のひとつとして、更なる教育の充実・発展を図ることを目的に「甲子園学院教育振興基金」が設立され、同年四月より募金活動を開始いたしました。

以来、各学校の在学生の保護者、卒業生、教職員や企業の方々より広くご芳志を賜り、基金も充実し、その果実は本学院の教育や施設・設備の充実に大きく寄与してまいりました。

今後とも、建学の精神に則り全教職員が一丸となって叡智を結集し、教育の充実及び施設・設備の整備・充実に一層努力し、活力ある学園として有為な人材の育成に努める所存でございますので、この機会に募金の趣旨にご賛同いた

時制高校で学び始め、卒業後、仕事で人との関わりが多かったので、より専門的に人間関係を学べる心理学を勉強しようと思い本学に入学しました。同級生は、「岡田さんは年齢の違う若い世代の中でみんなのつなぎ役になっていて、なくてはならない存在です」と語っています。岡田さんは「准学校心理士の資格はぜひ取りたいと考えています。夢は『子どもが何でも話せるおばあちゃん』になることです」と熱い思いを持ちながら、若い人と一緒に楽しく学んでいます。

だき、格段のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。今年度の充当物品等については左表のとおりです。

令和7年度 購入備品等

校種	購入した主な備品等
大 学	トイレ改修工事、ウオーターサーバー、(リース)複合機、エアコン空冷ヒートポンプ
短 大	エアコン修理・(リース)カラー複合機、複合機、プリンター
中 高	トイレ改修工事、空調設備更新工事、(リース)カラー複合機、複合機、時間割作成ソフト
小学校	タブレットPC充電保管庫、視力検査機、物置、(リース)複合機、特別教室プロジェクター
幼稚園	防犯カメラ設置工事、ユニット砂場設置、(リース)複合機、印刷機
本 部	空調機設置、(リース)複合機、シュレッダー、プリンター

運動会 10月6日(月)



一日延期の開催となった運動会。教師の予想を超え、やる気満々で登園してきた子どもたちの姿に、安堵の気持ちでいっぱいでした。中には、大きなグラウンドと多くの保護者の方々に前に緊張した表情の子どもや、お家の方と離れにくそうにしている子どもの姿もありましたが、開会式が始まる頃にはみんな落ち着いてクラスの友だちと一緒に頑張ろうとする姿が見られ、頼もしく思いました。

開会式後のラジオ体操、大玉送り、小学生のお兄さん・お姉さんたちと一緒に演技をした後は、いよいよ学年ごとのプログラムです。ドキドキわくわく初めての運動会をお家の方と頑張ったことり組。みんなが一生懸命走り切ったかけっこや可愛らしい衣装を身に

付けダンスを披露した年少組。友だちにしっかりとバトンを渡すことができた折り返しリレー、その子どもたちの自由表現を取り入れたダンス、そして玉入れでは熱い戦いを見せてくれた年中組。幼稚園最後の運動会となる年長組は、思わぬ風に苦戦した大玉運び、友だちと気持ちを一つにして頑張ったバラバールン、そして最後の最後まで熱戦となったリレーと、どれも迫力に満ちた演技を披露してくれました。



さらに昨年度から取り入れた応援合戦!!この日のために「オース」!と毎日保育室で声を出し、気合十分で本番に挑んだ子どもたち。そのうだコールや色コール、エール交換などを小学生と一体となって披露しました。

どの子どもたちもプログラムが進むごとに表情が変わり、開会式での緊張した表情がいつしか、たくましい顔つきへと変わっていききました。大きな経験と共に、一人ひとりが成長できた一日となりました。



年長児にとつての一大行事であるおとまり保育。初めて親元を離れてお泊りする子どもも多く、ワクワクとドキドキが入り混じっている様子が伺えました。「楽しみ!」「早くお泊りしたいな」という声と同時に、当日が近づくとつれ不安な様子も感じとれました。しかし、いざ始まるとクッキング、キャンプファイヤーごっこ、夏祭り、花火など楽しい事が一杯で終始目を輝かせていた子どもたち。なかでも学院小学校の先生や保護者の方に協力していただいた夏祭りをいっばい楽しめました。初めての夜の幼稚園、パジャマ姿の友だちと一緒に布団を運ぶのも嬉しそうでした。翌日、保育室に宝箱があり、開けてみると手紙とワッペンが。ワッペンを手にした子どもたちの表情には達成感が見られました。保護者の方から、何だかお兄さんお姉さんの顔になったみたいと言われた子どもも誇らしげでした。子どもたちにとって忘れる事ができない一泊二日の大冒険でした。

おとまり保育
七月十八日・十九日

毎月、その月に誕生日を迎える友だちをお祝いする誕生会を、全園児がホールに集まり行っています。誕生児の保護者の方にもお越しいただき、子どもたちの成長をみんなで喜び合う、温かな時間となっています。クラスの友だちが作ってくれたお祝いの冠を被った誕生児が、拍手に包まれながら入

場し、舞台上立って自己紹介をします。年少組はマイクを使い自分の名前と何歳になったかを、年長児はマイクを通さず大きな声で名前と生まれた日、今がんばって取り組んでいることを、自信をもって話す姿に成長を感じます。その後、全園児からの歌のプレゼントや、教師からの出し物もあり、誕生日を迎える友だちをみんなで祝います。



とお話の世界を楽しみながら、読み聞かせをしていただきます。子どもたちは自分や友だちのお母さんにいろいろな絵本を読んでもらうことをとても楽しみにしています。図書ボランティアは、単なるボランティア活動ではなく、その温かい関わりを通して子どもたちの成長に深く関与する重要な役割を果たしています。また、子どもの言葉の獲得や、社会性の向上など、様々な効果を生み出しています。

一人ひとりが大切にされていると実感できるこの時間は、友だちをお祝いする心や仲間意識を育む機会となっています。子どもたちの成長を感じ、みんなで喜び合える大切な時間です。



幼小合同

ど、万
するな
を表現
リング
大屋根
動では
隊形移
露しま
した。
たダン
スを披
阪・関
「この
る「こ
たダン
スを披
露しま
した。
隊形移
動では
大屋根
リング
を表現
するな
ど、万



戦では初の試みとしてオンライン投票を実施。保護者の皆様にもご参加いただき、会場は大いに盛り上がりました。

低学年はリズム演技で、大阪・関西万博のテーマソングである「この地球の続きを」に合わせ

特別プログラムの応援合戦は昨年度よりもパワーアップ。小学校高学年の児童で結成された応援団を中心とし、迫力ある応援やエール交換を行いました。さらに、応援合

幕開けとなった恒例の大玉送りでは、幼稚園の満三歳児から小学六年生まで、トラックに沿って体より大きな大玉を転がしゴールまで繋げていきます。赤組白組ともに張り、大接戦となった勝負は、白組が二戦連続で勝利し、会場全体が熱気に包まれました。

博の世界観を見事に表現しました。「たたかえ！風神リレー」では、声を掛け合いながらコースを疾走する児童の姿に、会場の視線が釘付けになりました。高学年のリズム演技は伝統のソーラン

運動会準備には、中高の先生方に加え中高バレー部の生徒にもお手伝いいただきました。

最後の競技で最後まで全力でやり遂げる子どもたちの姿に、自然と応援に熱が入り、見る人たちの目を惹きつけました。

動きに、会場からは大きな拍手が送られました。「綱引き」では、最後まで諦めずに力を合わせて綱を引く姿に、大きな声援が送られました。

力強いかけ声と息の合った動きに、会場からは大きな拍手が送られました。

節を披露しました。力強いかけ声と息の合った動きに、会場からは大きな拍手が送られました。



学習発表会

十一月八日

一年生は、「十一ぴきのねこ」を原作とした音楽劇でした。セリフだけでなく、元気いっぱいな歌声も披露しました。二年生は、ホタルたちが仲間とともに旅に出る話。劇の最後には、一学期から練習に励んできた演奏を披露しました。

三年生は、「絆」をテーマとした国語劇。力を合わせ強大な敵に立ち向かうシーンは、クラスのスの仲の良さを象徴していました。

四年生は、すべてのセリフが英語の劇。「ピーターパン」の世界を見事に表現し、日々の英語学習の成果を発揮しました。

五・六年生の合唱では、歌声とともに振り付けを、リコーダー奏と器楽合奏では、迫力のある演奏を届けました。劇は、街に遅れてやってきたサンタクロースが恵まれない兄妹を笑顔にしようとする心温まる話でした。

最後は恒例のティーチャーズⅡフェニックス&ダンサーズ。歌声とダンスに、会場は熱気に包まれました。

一年生は、「十一ぴきのねこ」を原作とした音楽劇でした。セリフだけでなく、元気いっぱいな歌声も披露しました。二年生は、ホタルたちが仲間とともに旅に出る話。劇の最後には、一学期から練習に励んできた演奏を披露しました。



国際交流

十一月十二日、韓国の吉安初等学校の皆さんをお迎えし、国際交流を行いました。午前の歓迎セレモニーでは記念品の交換を行い、アトラクションで本校一・三年生が詩の群読を、四年生が英語劇を、五・六年生が合唱やソーランを披露し、吉安初等学校は管楽器と

ダンスを披露してくださいました。食堂で一緒に昼食をいただいた後、各学年団と折り紙やけん玉遊び、韓国伝統の遊びを一緒に楽しみました。

私はいま五年に甲子園学院小学校を卒業。早稲田大学理工学部・理工学研究科を経て、特許庁に特許審査官として入庁しました。昨年四月に大阪に出向となり、現在大阪大学大学院法学研究科で准教授をしております。主な業務は教育（学部生に知的財産法を、大学院生に特許法を講義）ですが、知財に関する論文執筆等、研究にも取り組んでいます。



岡本 健太郎

第三十七期生
大阪大学大学院
法学研究科准教授

すばらしい先輩たち

高校まで慣れ親しんだ関西に赴任し、すぐに思い浮かんだのは甲子園学院小学校のことでした。同級生に連絡を取り、昨年十一月に校友と私の三人で小学校を訪問したところ、小学六年の時、担任し

ていた中道先生（現・校長）にお会いすることができました。先生と昔話に花を咲かせる中で、入学する際、母に付き添われながら初めて電車とバスで登校したこと、仲間とドッジボールをして楽しんだこと、スイミングスクールや阪神パークのプールで泳いだこと、マラソン大会で優勝したこと、沖縄修学旅行で見た夕日が過去イチ綺麗だったこと等、三十年以上も前の思い出が鮮明に蘇ってきました。そして、今の自分があるのは、お世話になった先生方、また同級生をはじめとする校友のおかげであると実感しました。皆様、本当にありがとうございます。

これからも人との繋がりを大切にしていきたいと思っています。

最後になりましたが、本校関係者全ての皆様の益々のご活躍とご健康を、そして在校生たちのこれからの活躍を心よりお祈り申し上げます。

韓国伝統の遊びを一緒に楽しみました。



コーラスコンクール

七月十日

一学期の締めくくりとして、西宮市民会館アミティ・ペイコムホールで「令和七年度コーラスコンクール」が盛大に開催されました。この行事は、歌の技術だけでなく、クラスの団結力や和衷協同の精神を育む本校の大切な行事です。

四月、新クラスが編成されるとすぐに各クラスでは自由曲の選定と指揮者・伴奏者についての話し合いがもたれました。この初期の段階から、「絶対に金賞を獲得ぞー」という熱いスローガンのもと、クラス全員が同じ目標に向かって動き出しました。

ゴールデンウィーク明けから本格的な練習が始まり、クラスごとに異なる曲の解釈、音程の正確さや表現力、声質の調和など多くの課題に取り組みました。録音を活用して客観的に音を確認したり、練習後に反省会を開いたり、各クラスが工夫を凝らして練習を重ねました。お互いの意見を尊重し、努力を積み重ねた約二ヶ月半は、



クラスという小さな共同体が、真の意味で一致団結していく貴重な時間となりました。

本番が近づくと、学校全体がコンクール一色に染まりました。特別時間割が組まれ、八限目には全体練習の時間が設けられました。練習環境も整備され、校舎のあちこちからは美しいハーモニーや熱心な声出し練習の音が聞こえてきました。生徒たちは主体的に練習を進め、指揮者や伴奏者が細部まで表現指導を行う姿が見られました。一人ひとりの真剣な姿勢は周囲にも感動を与え、クラスの絆がさらに深まりました。

そして迎えた本番当日。緊張と期待が入り混じる中、生徒たちは舞台上に立ち、これまでの努力を信じて一音一音を魂を込めて堂々と歌い、クラス全員の心が通じ合ったハーモニーが、会場全体を包み込みました。歌い終えた瞬間の笑顔には、達成感と仲間との絆が溢れていました。

表彰結果は次の通りです。

- ☆金賞 高校三年二組 「春に」
- ☆銀賞 高校二年二組 「時の旅人」
- ☆銅賞 高校三年三組 「変わらないもの」
- ☆指揮者賞 高校三年三組 石川 桃子
- ☆伴奏者賞 高校三年二組 福井 花怜

大盛況の文化祭

十月四日

本校にて待ちに待った文化祭が開催されました。あいにくの雨模様でしたが、たくさんの方々にご来校いただき、校内は朝から夕方まで活気に満ちていました。

各クラスでは、それぞれに趣向を凝らした催しを企画し、



装飾や例年とは異なる運営方法に取り組みながら、準備段階から試行錯誤を繰り返してきました。当日は模擬店やゲームなど多彩な内容が並び、訪れた方々の笑顔があちこちで見られました。生徒たちの熱意と創意工夫が、来場者の心をしっかりとつかんでいたようです。

今年の文化祭では、久々の取り組みとして食堂を活用した飲食店の出店を行い、高校三年生と中学三年生、そして教職員がそれぞれに個性あふれるメニューを提供し、食堂は賑わいを見せました。高校三年一組は「フロート」、二組は「たこせん」、三組は「フランクフルト」、中学三年生は「わたがし」、教職員は「冷やし坦々そうめん」

を販売。どのメニューも大好評で、長い列ができるほどの盛況ぶりでした。生徒と教職員が一緒になって運営する姿は、文化祭ならではの温かい光景でした。

模擬店もバラエティ豊かで、来場者を楽しませてくれました。中学一・二年生による「お化け屋敷」は、細部までこだわった演出でスリル満点、高校一年一組の「フォトスボット」では、映える背景と小道具が用意され、記念撮影を楽しむ姿が多く見られました。高校一年二組の「謎解き」は頭を使う仕掛けが満載で、挑戦する来場者の表情は真剣そのもの。

高校二年一組の「イカゲーム風ゲーム」はユニークな企画で、二組の「アメリカンダイナー」は本格的な装飾と雰囲気異国気分を味わえる空間となっていました。さらに、今年は甲子園短期大学のイネーブルガーデンをお借りして模擬店を展開するという新しい試みもありました。教員による「かたぬき」や「ゲームコーナー」、高校二年二組による「ボールプール」や「スー



パーボールすくい」は、小さなお子さんから大人まで幅広い世代の方々に楽しんでいただけました。自然に囲まれた開放的な空間での催しは、文化祭の新たな魅力となったように感じます。また、恒例となりつつあるキッチンカーが今年も登場し、来場者の食欲をそそる香りが校内に漂っていました。午後からは体育館にて、吹奏楽部による迫力ある演奏を皮切りに、生徒有志によるステージ発表が行われました。ダンス、歌、コント、ものまねなど、ジャンルは多岐にわたり、どの発表も日頃の練習の成果が感じられる素晴らしい内容でした。観客席からは拍手と歓声が絶えず、会場は一体感に包まれていました。教員によるジャグリングも披露され、笑顔と驚きが広がる楽しい時間となりました。

雨天にもかかわらず、多くの方々のご協力とご支援により、今年の文化祭も無事に盛会のうちに終えることができました。生徒たちの努力と来場者の温かい応援がひとつになった、忘れがたい一日となりました。



中学校秋季旅行

十月二十八〜三十日

秋も深まり、少し寒さも増してきた十月二十八日、中学校三学年合同での秋季旅行に出発しました。昨年は早朝の電車遅延もあり慌ただしい出発となりましたが、今年は全生徒が余裕をもって集合場所に集まることができ、期待に胸を膨らませながら新幹線に乗り込みました。

一日目の目的地は東京ディズニーランド。入場ゲート前で写真を撮り解散の合図が出た途端、待っていましたと言わんばかりに班に分かれて園内に入っていく姿からは、この

秋季旅行をとっても楽しみにしていた気持ち伝わって来ました。



閉演のパレードと花火を見た後、一日の感想を語り合いながらホテルへと到着。興奮冷めやらぬ中でしたが、体力の限り遊びまわったからか、消灯時間にはしっかりと静かにできていました。

二日目はディズニーシー。ランドとは雰囲気の違い世界観に、前日の疲れをもろともしない様子で

アトラクションへと一目散。お昼の集合時にはできたての思い出をたくさん話してくれました。学年や部活動の垣根を越えて写真を撮る生徒も数多くおり、写真フォルダは生徒



たちはのじけるような笑顔で満ちていました。夜には気温も下がっていたが、生徒たちの明るさはそれをしのぐほどでした。

三日目、滞在したホテルをチェックアウトし、名残惜しい気持ちを抱えつつ、ディズニーリゾートを後にしました。一、二年生からは来年も楽しみという声があふれ、三年生には最後の旅行を楽しみつくした満足感がありました。

最後に、雷門前で記念撮影。浅草寺をはじめ、東京の街並み思いのままに散策していました。先輩や家族へのお土産を買ったり食べ歩きを楽しんだり、旅行最終日を楽しんでいました。

全体を通して、班行動での協調性、事前により物を調べる計画性を、集団の中で生活するという社会性を学びながら、三日間の秋季旅行を目的に楽しむ姿がたくさん見られました。

芸術鑑賞

十月六日

芸術鑑賞としてミュージカル『SPY×FAMILY』を梅田芸術劇場で観劇しました。人気漫画・アニメの世界観がそのまま舞台に再現され、迫力ある歌とダンスに会場は終始大きな熱気に包まれました。

舞台は、世界が水面下で激しい情報戦を繰り広げる東西冷戦時代。西国の凄腕スパイである主人公ロイド・フォージャーは、東西の平和を脅かす危険人物に近づくため、極秘任務を命じられます。その内

容は、「一週間以内に家族を作り、名門校の懇親会に潜入せよ」という無茶なもの。ロイドは、孤児院から娘としてアーニャを、偶然出会った女性ヨルを妻として迎え入れ、偽装家族を形成します。しかし、ロイドは娘のアーニャは他人の心が読める超能力者であり、妻のヨルは凄腕の殺し屋であるということを知りません。互いの正体を知らないロイドとヨル、そして二人の秘密を全て知っているアーニャ。そ



「生徒がとても親切で丁寧に案内してくれた」「学校の雰囲気が明るく楽しそう」「校舎がきれいで居心地が良かった」「吹奏楽部やダンス部の発表が素晴らしい」「など、多くのうれしい感想をいただきました。抽選会やランチ体験も好評で、終始笑顔があふれる一日となりました。

一方で、「進路やクラス構成、指定校推薦の内容などをもっと知れたかった」「ミニ授業を体験してみたい」「個別相談をもう少し気軽に受けられるようにしてほしい」といった意見も多く寄せられました。これらの声から、学習面や進路指導への関心が高まっていることを改めて感じました。次年度はこうした希望に応えられるよう、より充実した説明や体験機会を検討します。

運営面では前回よりも大きな成長が見られました。校舎案内ではハンドマイクを使用することで案内役の生徒の説明がより聞き取りやすくなったほか、案内板や校舎マップの整備で迷う来場者が減少しました。制服試着コーナーや個別相談等の改善も功を奏し、「落ち着いた相談できた」との声もありました。さらに、「デジタルスタンプラリー」などの新しいアイデアも生まれています。このような発想を大切にしながら、参加者が「この学校に来てよかった」と感じられるオープンスクールを目指していきます。

来場者からは、



笑顔あふれる オープンスクール

八月〜十月

今年度のオープンスクールは、昨年度の経験を踏まえ新しい工夫を加えながら実施しました。朝の受付から全体会、校舎見学、部活動体験まで、生徒と教職員が協力し合い、

温かい雰囲気の中で参加者を迎えることができ

ました。

土井善晴先生 公開講座



十一月十五日、本学客員教授土井善晴先生の公開講座を開催しました。一般参加者九十八名を含め、学生・教職員総計百三十二名が聴講しました。

「料理は人間の喜びか!?」をテーマに大阪・関西万博「BLUE OCEAN DOME」のカフェスペースで話題となった土井先生監修の「海と山の超純水」に触れられながら、自然の恵みについてお話がありました。さらに、「自然の物を材料に料理し、食事をいただく、その後は片付けてきれいにする。この循環の持続が人の喜び、幸せにつながる」とのお話



には、会場で頂く姿が多く見られました。将来、料理人を目指す学生との質疑応答では、美しいもの、例えば料理を盛り付ける器などをたくさん見て、「いいものがわかる」ようになることが大切だとご教示いただきました。

大 学 祭

い声と拍手がわき起こり、学生と教職員が一緒に楽しみ時間となりました。

学友会役

員を中心にⅡ回生全員が協力し合い、Ⅰ回生も担当場所の準備や当日の運営、片付けまで行いました。全学生一丸となって協同して取り組めた感動が、参加者全員の心に残るイベントとなりました。



十月二十五日、園芸実習場で大挙祭を開催しました。今年は大阪・関西万博に因んだ「KJC EXPO」をテーマに、模擬店やイベントはパビリオンとして行いました。午前中の一般公開では、毎年大人気の花苗販売「花咲パビリオン」が賑わい、「メダカパビリオン」や「スパーボールパビリオン」では、子どもたちや学生の楽しい声が響きました。また、模擬店では「ワッフルパビリオン」「たこやきパビリオン」での調理販売を行い、大好評で完売。卒業生によるかぎ針編みのお花やさん、関係者による押し花やドローン等、新しく設置した体験コーナーは楽しい交流の場にもなりました。芝生ではゲリラ的に行われるダンスやパラボラロンもあり参加した子どもたちの歓声や見守る保護者の笑顔に包まれました。



午後からは、学内のイベントとして学友会主催ビンゴ大会が開催されました。オープニングは有志学生による器楽演奏、ビンゴでは番号が読み上げられるたびに一喜一憂し、景品が当たった時には笑

幼教フィールドワーク研修 ミュージカル鑑賞

七月二十八日、『どんぐりコール』なつやすみファミリーステージ MUSICAL ミュージカルが西宮市プレラホールであり、幼児教育保育学科のうち、Ⅱ回生の「保育内容環境」とⅠ回生の「子どもと言葉」履修生が鑑賞しました。前半はミュージカルの代表曲の歌唱や楽器のアンサンブル演奏、後半はミュージカルの『ピーターパン』でした。どの演目も観客との掛け合いや楽器の説明など、子どもも大人もわかりやすく楽しむことができた演出が工夫されていました。学生は素晴らしい歌声や演奏、ミュージカルに魅了され、感性を育むひとときになりました。

全学フィールドワーク 研修報告

九月十八日、生活環境学科、幼児教育保育学科の全学生合同による「令和七年度全学フィールドワーク研修」を行いました。今回は「神戸六甲ミーツ・アート2025」が開催されている六甲山上で、自然とアートを楽しみ、アート鑑賞を通じて、より多くの山の上で、自然とアートを考えることを目的とした企画でした。学

短期大学六十周年の 歴史を振り返るその②

年	＜短期大学の沿革＞
昭和39	甲子園短期大学 設置認可(家政科)
昭和42	幼児教育科 開設
昭和47	初等教育科 開設
平成元	日本文化科 開設
平成11	家政科の専攻分離(家政・生活福祉)
平成13	日本文化科を文化情報科に名称変更
平成16	家政科を家政学科、幼児教育科を幼児教育保育学科、文化情報科を文化情報学科にそれぞれ名称変更
平成21	家政学科を生活環境学科に名称変更、さらに専攻課程の名称を生活環境と介護福祉に変更
平成29	生活環境学科で専攻を廃し、フィールド制(ライフキャリア・介護福祉)を導入

生たちは事前にそれぞれ六甲山について調べるとともに、会場マップや山上バスの時刻表などからグループで行動計画を立案し研修に参加しました。学生からは「日頃出会えない自然とアートに触れ合えて良い体験ができた」「日常とは違うメンバーで交流ができた」などの報告がありました。秋涼の六甲山頂で実りある一日を過ごしました。



短期大学は、建学の精神に基づき、広い一般教養と専門的知識・技能を授け、健全円満な人格の陶冶を図るとともに専門の職業に従事し、社会の発展に貢献できる人材の養成を教育理念として、昭和三十九年に家政科からスタートしました。その後、時代や社会の変化に合わせて学科を創設・変更してきました。

訂正 前号の短期大学六十周年の歴史を振り返るその①において初代学長の氏名に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

誤「斎藤容寿」↓正「斎藤睿寿」

第五十七回 紅葉祭

十月三日

第五十七回紅葉祭を開催しました。今年のテーマ「百花繚乱」には、様々な人々の才能や魅力が集まり輝いてほしいという願いが込められています。今年は特別に、



甲子園学院中学校・高等学校吹奏楽部に客演いただき、その迫力ある演奏は圧倒的でした。ステージでは、お笑いライブ、くじ引きやビンゴ大会、本学の吹奏楽サークルの演奏も行われ、各サークルによる模擬店も盛況でした。また、学生や卒業生、地域の方々が世代を超えて交流する姿が見られました。

第26回 サイコカップ開催

十月二十三日にサイコカップが行われました。サイコカップとは心理学部で毎年行っている運動会で、前期から学生を中心に企画・運営を行っています。



授業紹介「公衆栄養学」 栄養学部 櫻野いく子准教授

私たちの生活に欠かせない「食事」。もし毎日の食事で病気を予防し、生活の質（QOL）を高めることができたなら、とても素晴らしいと思いませんか。

一方で、「〇〇を食べれば病気が治る」といった派手な宣伝文句に惑わされることも少なくありません。だからこそ大切なのが、確かな情報を見極める力です。「公衆栄養学」では、信頼できる情報を厳選していく力を養います。さらに、データを読み解き、地域や市民の健康課題を把握し、その改善につながるプログラムを企画・実践する手法を学びます。この授業は「科学的な根拠に基づいて多くの人の健康を支える力」を育てる学びの場です。近年は環境に配慮した食事の重要性も高まっています。研究室では「地球と人にやさしい食事を食卓へ」をモットーに疾病との関連を検証するとともに、学生と一緒にメニュー開発を行っています。SNSで活動の様子を配信する予定ですので、ご覧ください。

今年は四チームに分かれ、綱引き・ドッジボール・玉入れ・二人三脚競争などの種目を実施し、総合得点で競いました。普段とは異なる学生たちの一面を見ることができ、有意義なイベントでした。

宝塚カレーグランプリ 2025 「イノベーション賞」受賞!

八月二十日～二十五日、宝塚カレーグランプリ2025が宝塚阪急で開催されました。このイベントは、管理栄養士、栄養士、食ビジネスなどの領域で学ぶ学生が主体となり、レシビはもちろんのこと、パッケージデザインや販売価格を含めたオリジナルレトルトカレー（テイクアウトも含む）を開発し、店頭販売で売上高を競うものです。

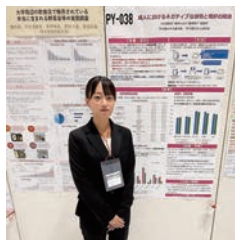


本学は二十二日および二十三日の二日間に出演し、「幻の和牛」と言われる「宝塚牛」を使用した『宝塚牛と淡路産たまねぎの欧風宝塚カレー』を販売。昨年度と比較し約一・五倍の売上を達成することが出来ました。また今までにない販売方法が評価され、副賞として「イノベーション賞」を受賞しました。学生たちはレシビ考案から店頭販売までを体験することで、創意工夫した商品を世に送り出す楽しさと大変さ、そしてそれが評価されるという成功体験を積みむことができ、大きな学びを得ることができました。

日本心理学会で 学会発表

心理学部の井上晴葉助教と藪田拓哉助教が日本心理学会第八十九回大会（九月五日～七日、東北学院大学五橋キャンパス）で学会発表を行いました。一九二七年に創立された日本心理学会は、心理学の総合学会の中でも歴史のある学会になります。今回の大会の参加登録者数は約三千人と、全国規模の学会です。学会発表について、お二方に感想を頂きました。

フードデザイン学科四回生 学会でポスター発表



九月十二日～十四日に東京農業大学世田谷キャンパスで開催された第七十二回日本栄養改善学会学術総会において、フードデザイン学科四回生の左鴻鈴音さんが「成人におけるネガティブな感情と嗜好の関連」についてポスター発表を行いました。本研究は、食べることの楽しみや健康維持に欠かせない「味覚」と感情との関係に着目したものです。成人六十七名を対象に、体調や気分を評価したうえでコーンスープを試料として

井上助教 私は、今大会で初めて、話題提供者として「声が伝える『私らしさ』と『その人らしさ』を考える」というシンポジウムに登壇しました。私の発表について、大学院生の方から質問を頂きました。研究内容とその方法について興味を持っていただけたようで嬉しかったです。

藪田助教 「アニメ視聴が癒しをもたらすプロセス」という題目でポスター発表をしました。学部生や著名な先生を始め、アニメ好きの方も来てくださり、研究からアニメ談話に至るまでさまざまな方と交流させてもらえました。また、基礎から臨床まで幅広い心理学の講演が企画され、心理学を堪能できる時間を過ごしました。

て官能評価を行い、動画鑑賞による感情の変化が味覚にどのような影響を与えるかを検討しました。その結果、気分尺度では「落ち着いた」「活気にあふれた」などの感情に有意な変化が見られた一方で、塩味や甘味、風味など味覚に関する項目には統計的な有意差は認められませんでした。しかし、味の感じ方に一定の傾向が示されており、今後は試料の種類を変えて検証する必要があることが示唆されました。研究成果を多くの方々にご覧いただき、研究内容を発表する中で新たな視点や課題につながる貴重な機会となりました。

